

平成30年度 地域ケア会議推進事業の実績と令和元年度の計画

■目的

高齢者が住みなれた地域で尊厳を保持しその人らしい生活を送ることができるよう、質の高いケアマネジメントの実現による高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を進めていくことを目的とする。

■地域ケア会議の定義

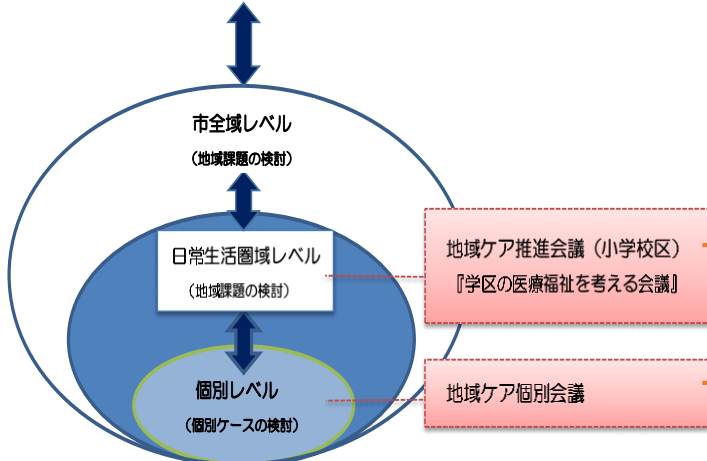
地域ケア会議は、地域包括支援センターまたは市が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」のこと。個別ケースの検討により共有された地域課題を地域づくりや政策形成に着実に結び付けていくことで、市が取り組む地域包括ケアシステムの構築の推進につなげる。

地域ケア会議には、①個別の事例について検討する「地域ケア個別会議」と、②個別事例の検討から明らかになった地域の課題への対応を検討する「地域ケア推進会議」がある。ここでは、両方を含めて地域ケア会議と呼ぶ。

平成30年度実績

地域ケア個別会議 計76回、地域ケア推進会議 計32回

市町村を超えたレベル



H30	高穂			草津			老上	
	志津	志津南	矢倉	草津	大路	渋川	老上	老上西
	3	0	3	2	0	2	3	2
	玉川		松原		新堂			
	玉川	南笠東	山田	笠縫	笠縫東	常盤	計	
	3	2	2	7	1	2	32	

H30	高穂	草津	老上	玉川	松原	新堂	計
		10	18	6	9	22	11

■地域ケア個別会議から抽出された課題（例）

☆認知症であることをまわりに言えず、地域に迷惑をかけないようにと家族が地域サロンを休ませる。家族が抱えこんでしまい、本人も家族も地域とのつながりがなくなり孤立化。

☆独居、認知症高齢者等、見守りが必要な人が介護サービスを利用することで、地域とのつながりが切れてしまう。

↓ 地域ケア推進会議で課題を共有し、何度も話し合いをした結果…

○認知症に優しい地域づくりを目指し、まち協や学区社協が中心となり、学区で認知症講座や認知症高齢者の徘徊模擬訓練を実施。

○地域で孤立せず、困った時に相談できる地域を目指して、医師や介護サービス事業所等、専門職の協力を得て、地域の方がまちづくりセンターでの相談会を企画したり、カフェを定期的開催。

令和元年度計画

■現状・課題

地域包括ケアシステムの構築、深化に向けた、地域ケア個別会議の充実により、地域ネットワークの構築（見守り・声かけ・活動参加の促し）、不足する資源の把握と創出に取り組む必要があるが、会議の基準が曖昧なため、包括により開催状況にバラつきが出ている。また、個別会議で出た課題のうち、市レベルで検討し解決をはかるしくみがない。

今年度より、草津市地域ケア会議マニュアルに基づき、各包括による地域ケア個別会議の考え方の統一をはかるとともに、地域課題検討会議の開催、あんしんいきいきプラン委員会への提言等、個別会議から抽出された地域課題の集約、市レベルにおける検討につなげていく。